

五・渡邊氏所蔵地図 解説と目録

長岡正利

渡邊正氏の業績については、本書「はしがき」にまとめられている。

概要を述べれば、陸軍大学校卒業後に、大東亜戦争末期の参謀本部（第二部）参謀として、兵要地誌等の情報および陸地測量部の管轄を担当された。その間、本土決戦に備えての「兵要地理調査研究会」による兵要地理資料の集成を企画・実施された。敗戦直後には、国土の復興に資するために、必要な地図資料の残置処分を図るとともに、陸地測量部組織を内務省に移管・再編成するなどを自ら推進された。

渡邊正氏が将来に残そうとした地図については、敗戦時の参謀本部にあったもの（外邦国を含む）については、既に、本書「はしがき」に概要がまとめられているように、関係者の尽力によつて各所に残され、利用が可能となっている。

別に、地図作成機関である陸地測量部にあったものについては、多くが焼却処分されたが、長岡『外邦図研究ニューズレター』2号、二〇〇四年）が紹介しているように、渡邊正氏が飛騨高山に移して秘匿した「初刷」地図の完全セット（旧領土のほか、支那・シベリア・南方を含む）が、かつての地理調査所から別機関に移されてしまったのは残念なことである。なお、「初刷」とは、印刷した地図総てについて、その各一枚を保存用に残す規定があったもので、この定めは戦後も引き継がれている。

次に、渡邊氏所蔵地図の現況を次に述べる。

渡邊氏の言によれば、「昔から系統的に地図を集めようとしたものでは

なく、加えて、かなり以前に多くの資料・文献を借行社に寄贈したので、今残っている地図はたまたま今日まであったものにすぎない。」との由である。

そのような事情の所蔵地図であるが、これらをまとめれば、本稿末の表（目録）のようである。以下で、それらのうちから、枚数の多いものや興味のあるものについて概説する。

陸地測量部発行の中縮尺地図

二〇万分一帝国図と五〇万分一輿地図がある。いずれも、市販されていた代表的な中縮尺図である。帝国図は、明治二〇年代の輯製図を引き継いで明治三〇年代から発行されたもので、五万分一地形図から編集された等高線・陰影式四色刷りの美しい地図である。輿地図は、大正期から作られて、初期のものはケバ表現であったが、後に等高線・陰影式となった。なお、一般販売されていたものと、後に地図の一般販売が停止されて以降の、参謀本部発行版がある。

陸地測量部発行の外国地図（その小縮尺図）

これらの多くは、発行当初は一般に販売されていた地図である。いずれも、当時の陸地測量部における地理情報の蒐集力を反映して、大陸内奥の情報に至るまで豊富・精緻なものとなっている。例を挙げれば、表（目録）のNo.10で、タクラマカン沙漠に流入するホータン（和闐）河沿

いに連なる集落名など、今は総て失われたものが記載されており、貴重である。

中で特記したいのは、No. 15である。地図そのものは開戦前までの市販図であり、特に興味を牽くものではないが、中の書き込みが貴重である。掲載図に見るように、開戦当初のインドシナと太平洋島嶼への上陸作戦が描かれている。なおこの図には、一九四一年十二月七日朝に撃墜された英軍偵察機の記入があることから、開戦後にまとめられた情報であることが判る。この図に見るように、十二月四日に海南島を発った第二十五軍の先遣隊は、真珠湾攻撃に先立って、八日0130のマレー半島コタバルへの敵前上陸などを皮切りに戦端を開いている。掲載部分にはないが、十日にウエーク島上陸とある南海支隊は、この後にラバウル上陸などを果たすが、後のガタルカナル島作戦でほぼ壊滅した。ほかに、香港国境線突破、ルソン島北部上陸が記されている。

偕行社・満鉄発行の地図

軍と密接に関係のあったこれらの組織においても、地図が作成・発売された。ともに、陸地測量部による豊富な地図資料を利用しており、その内容は精緻を極めている。地図印刷を、陸地測量部地図元売りの小林又七商店や、戦中に陸地測量部地図の印刷を請け負う凸版印刷(株)が行っているものがある。

雑誌社・新聞社発行の地図

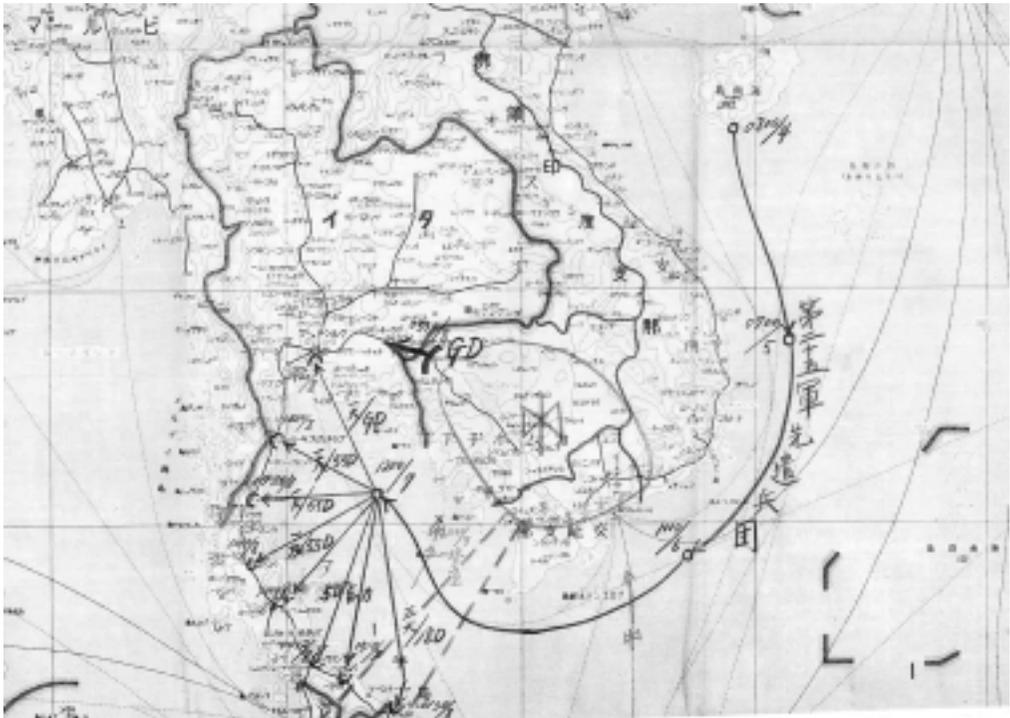


図 1

所蔵地図のNo. 15「南方輿地図」への、開戦前夜の状況の書き込み部分を示す。

戦前の雑誌・新聞には、地図の付録がよく付けられた。特に、新聞の元目紙と雑誌の一月号付録では、各社はその内容を競った。内容は、いずれも時局を反映したものとなっている。

また、渡邊氏の活動を反映するように、戦後の地図もある。

その他

No. 45 「ソ連領内収容所分布図」は、復員省がまとめた資料の付図と思われる。詳しい挿入図もあって、一連番号が付された収容所位置が示されている。

No. 46 「地図整備用 中国主要都市目録」は、陸地測量部が整備した（またはその予定の）中国各都市についての大縮尺地図の一覧図である。

付記 外邦図「初刷」のその後

前述の、松本に疎開されていた陸地測量部から渡邊正氏がさらに飛騨高山に移して秘匿した、完全セットの外邦図「初刷」のその後について、概要は次のようである。（長岡『外邦図ニューズレター』2号）の抄録）

- ・昭和二十二年に高山市から地理調査所（千葉市の稲毛庁舎）に移された。その後も、公式には「存在しない」状態が続き、所内で一部の職員に引き継がれていた。

・昭和三十年頃に開梱して整理され、内部では閲覧可能な状態になっ

ていた。その総数は約二万三千万枚であった。各所に残っていた外邦図で、後に移されて来たものもあった。

- ・昭和三十一年・三十三年頃に、防衛研修所（当時）からの依頼があった。整理した外邦図についての目録『国外地図目録』とインデックス図『国外地図一覧図』を5部ほど作った。そのころから、研究者などの非公式利用に依っていた。当時、防衛研修所でも不足分を地理調査所から補って、外邦図の一式（コピーを含む）をそろえた。

・地理調査所では、昭和四十年代に入つての反戦機運の中で、「所蔵している」と色々面倒だ。」との考えで、ある幹部が上部の了解のもとに他に全部移管した。以後、同所では外部からの照会に対して、「そのような地図はない。」と言ってきた。なお、現在の防衛研究所戦史部には、相当数の陸地測量部地図と水路部海図（ともに外邦図を含む）があるが、移管された外邦図そのものではない。

・この移管外邦図は、平成三年頃に実見したところでは、隅を金属で補強した柿渋引き紙箱（地理調査所当時に米軍から供与されたもので、航空写真用等使っていた。約15×35×25 cm程度）多数に整然と保管されて、そのままの状態の時を経過している。一部を確認したところでは、『国外地図目録』と一致する。

このことおよび戦前後の状況から、これが、保存用外邦図「初刷」がそのままの形で残されたものに相違ないことが判明している。

なお、現在の国土地理院にある外邦図には、前述の昭和四十年代初頭の移管時に国土地理院に残存した少数のものに加えて、近年になって東北大学から公開を前提に移管された一万枚がある。

表1 渡邊正氏所蔵の地図目録

No.	地図の表題	縮尺	発行者	製版・修正日	発行日	備考
(参謀本部・陸地測量部・軍令部の発行)						
1	20万分1 帝国「飯田」／「岡崎」	1 : 20万	参本／陸測		—／S6. 2. 28	部外秘
2	50万分1 輿地図「鹿児島」	1 : 50万	陸地測量部	S4 製版S15修	S. 15. 9. 30	〃
3	〃	〃	参謀本部	〃	〃	〃
4	〃 「宇和島」	〃	〃	T8製版S12修	〃	〃
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃, 上と同じ図
6	〃 「徳島」	〃	〃	T13製版S18鉄補	〃	〃
7	〃 「松江」	〃	〃	T12製版S14修	〃	〃
8	〃 (名称なし)	〃	陸地測量部	S12. 5製版	〃	関東全域の集成図
9	400万分1 支那全図(其1)	1 : 400万	〃	S13製版	S13. 5. 30	〃
10	〃 (其2)	〃	〃	〃	〃	〃
11	250万分1 支那東部	1 : 250万	〃	〃	S12. 12. 5	〃
12	〃	〃	〃	〃	〃	複製図
13	南支那	1 : 100万	〃	S13. 9製版	〃	〃
14	四川省	1 : 180万	〃	〃	〃	「支那省別全誌」第1巻付図
15	南方輿地図	1 : 500万	〃	〃	S15. 8	軍事機密, 開戦時の記入
16	南方輿地図(その右半図のみ)	1 : 600万	〃	〃	〃	〃
17	北方支那図	1 : 250万	〃	T16. 2製版...	〃	コピー
18	亜細亜大陸図(その左下図のみ)	1 : 600万	〃	S9製版16増補	S16. 12. 28	〃
19	50万分1 航空図「南寧至ラングーン」	1 : 50万	軍令部	〃	S15. 3	〃
偕行社・満鉄の発行						
20	北支地図	1 : 500万	偕行社編纂部	〃	S12. 7. 30	〃
21	南支地図	1 : 100万	〃	〃	S12. 9. 8	〃
22	北支那地図	1 : 200万	南満洲鉄道(株)	〃	S15. 3. 31	〃
23	中南支那地図	1 : 200万	〃	〃	S13. 11. 30	〃
24	満洲国地図	1 : 200万	〃	〃	S10. 3. 20	〃
民間の発行						
25	最新欧州大地図	1 : 1650万	大日本雄弁会講談社	〃	S11. 1. 1	「キング」12巻1号付録
26	最新の東亜形成図解	1 : 650万	大阪毎日新聞	〃	S12. 1. 1	元旦付け付録
27	最新支那明細大地図	1 : 260万	大日本雄弁会講談社	〃	S13. 1. 1	「キング」14巻1号付録
	裏面に, 満蒙ソ聯国境大地図					
28	東亜現勢大地図	1 : 500万	〃	〃	S13. 1. 1	「富士」11巻1号付録
	裏面に, 最新支那重要地詳図					
29	漢口武昌市街詳図	1 : 1.6万	日本名所図絵社	〃	S16. 8. 25	〃
30	最新南京地図	1 : 2万	至誠社(上海)	〃	〃	〃
31	ハノイ市街図	〃	〃	〃	1974	コピー
32	ホーチミン市街図	〃	〃	〃	1976	コピー
33	ベトナム全図	1 : 250万	〃	〃	〃	コピー
34	韓国	1 : 140万	〃	〃	〃	裏面に韓国都市図
35	アジア大陸, 太平洋, インド洋方面一般図	〃	〃	〃	〃	コピー
36	中華人民共和国地図	1 : 600万	帝国書院	〃	1986	裏面に各都市図
外国の発行						
37	中華人民共和国掛図	1 : 800万	地図出版社(上海)	〃	〃	〃
38	NAJIN (RASHIN)	1 : 2万	AMS 1951	〃	1945	「THIS WEEKS NEWS」の裏面
39	最新北京地図	〃	文宝齋総批発処	〃	〃	〃
40	CHINA	1 : 1000万	〃	〃	〃	〃
41	(名称なし; 朝鮮)	1 : 100万	〃	〃	〃	A4版図の24枚綴じ
42	台湾省地図	1 : 50万	南華出版社	〃	中華民國75年	〃
43	朝鮮半島	1 : 110万	〃	〃	1978	ハングル語表記, コピー
44	AMS 5万図の部分コピー, 清津	1 : 5万	〃	〃	〃	コピー, 秘の印有り
その他, 各種図						
45	ソ連領内収容所分布図	1 : 435万	復員省か?	〃	〃	復員省資料の付図か?
46	地図整備用 中国主要都市目録	〃	〃	〃	〃	トレース図, 中国全域
47	南支那鉱物資源分布図	1 : 150万	〃	〃	〃	トレース図, 2枚組
48	朝鮮鉱山分布図	1 : 200万	〃	〃	〃	トレース図
49	満洲南部地質全図	1 : 80万	〃	〃	〃	下半部切断で詳細不明
50	会社飛行場所在地要図	〃	〃	〃	S9. 12	満洲国内の図, コピー
51	極東ソ連, 樺太, モスクワ近港付近地誌	1 : 8万	〃	〃	1980. 4	手書き模写図のコピー

備考: 図名・発行者名等は, 現代漢字で表記。図名に縮尺を含むものはそれを併記した。地図中に記載のない項目の該当欄は空白とした。